音羽中学校区小・中学校の今後の在り方に関するアンケート結果について

音羽地区住民に対し、音羽中学校区小・中学校の今後に在り方についてご意見をいただくため、下記の通りアンケート調査を行いました。ご協力ありがとうございました。結果は以下のとおりです。

- **アンケート期間** ： 令和8年3月号広報配布日～令和8年3月15日(当日消印有効)まで
- **アンケート回答数** ： 1,253 件 （紙:868 件、Web:385 件）

問1　あなたの年齢についてお答えください。

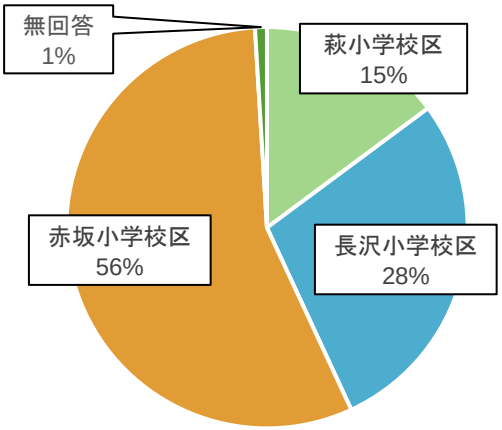
（人）

10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳以上	無回答
1	20	71	179	291	205	334	149	3

問2　あなたがお住いの小学校区をお答えください。

（人）

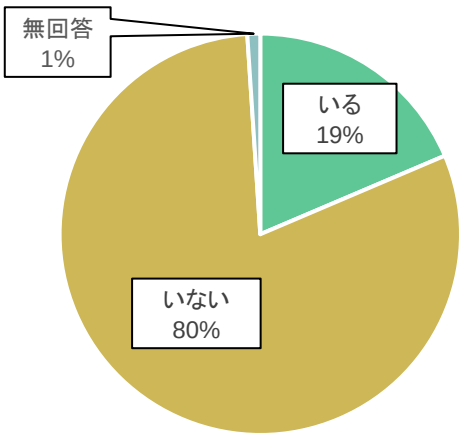
萩小学校区	186
長沢小学校区	354
赤坂小学校区	701
無回答	12



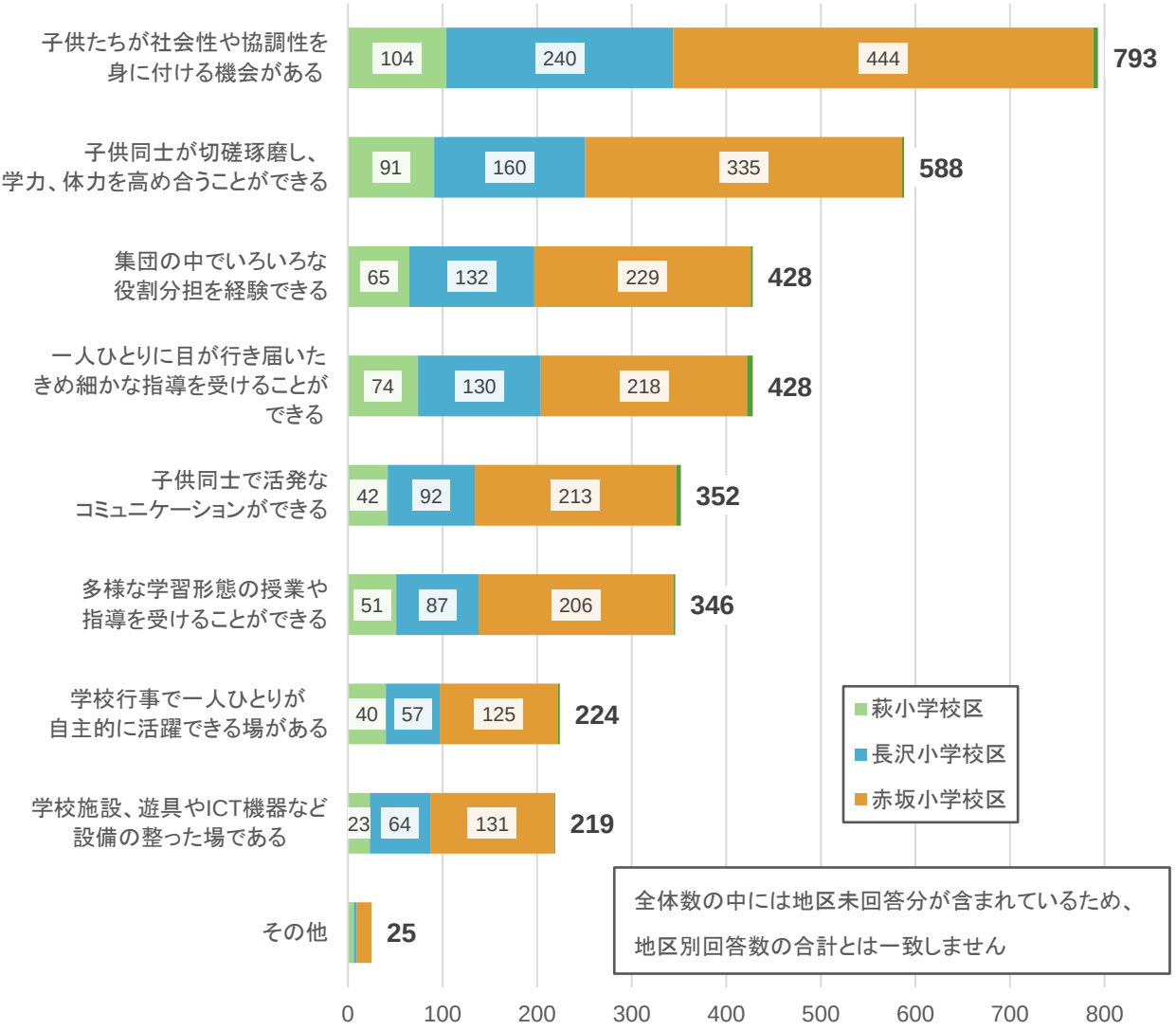
問3　小学生、中学生または未就学児（小学校進学前）のお子さんはますか。

（人）

いる	233
いない	1,007
無回答	13



問4　音羽中学校区の学校の再編を考える上で、特にどのような教育環境を求めますか。
（3つまで選択可）

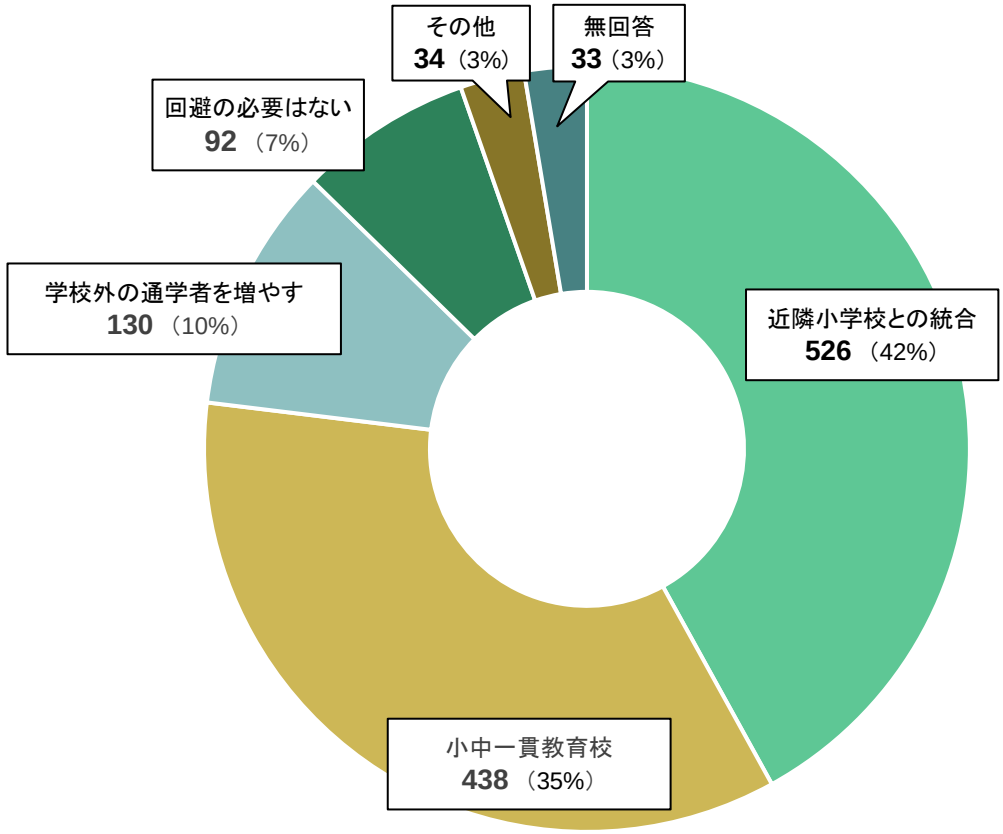


● **その他の意見**

教職員の「働き方改革」による負担軽減、児童・生徒間でのコミュニケーションがとれ、ゆとりのある教育環境、児童・生徒の個性を生かした取組ができる教育環境の確保や登下校の安全性の確保の意見のほか、それぞれの小学校の特色があり、現状のままでよい、地域と密接に関わりのある教育活動の継続的な実施などの意見がありました。

音羽中学校区の学校再編を考えるうえで求める教育環境は、「子供たちが社会性や協調性を身に付ける機会がある」が最も高く、次いで「子供同士が切磋琢磨し、学力、体力を高め合うことができる」の順となっており、集団の中での学習や生活に重きを置いていると考えられます。

問５　児童数が少なく複式学級の発生が予測される小学校について、複式学級を回避するため、具体的にどのような方法がよいと思われますか。

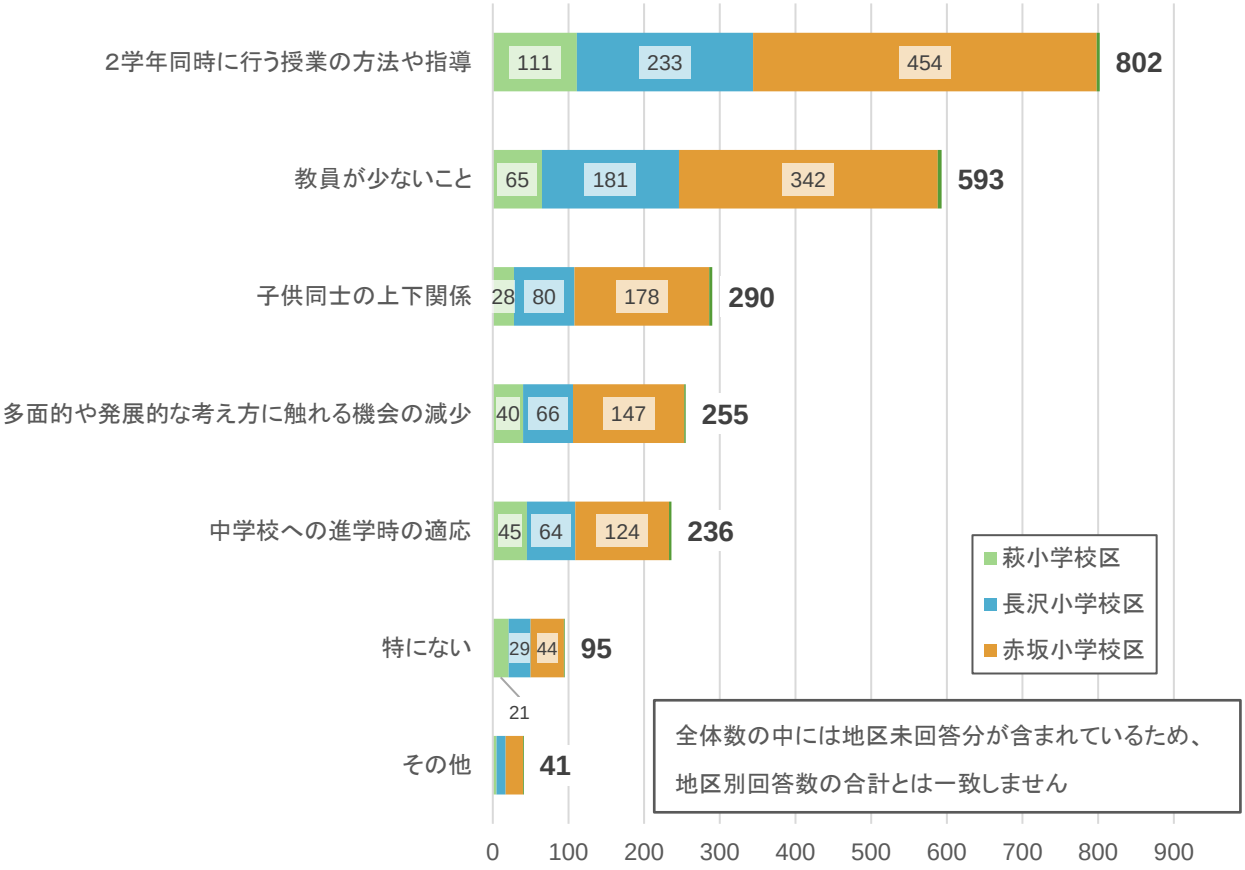


● その他の意見

隣接地域への転校や学区の見直しに関する意見のほか、開発等による人口増につながる施策の実施による児童数の増加に関する意見などがありました。

複式学級の回避に関しては、「近隣小学校との統合」が 526 人（42%）と最も高く、「小中一貫教育校」が 438 人（35%）と続いております。また、「回避の必要はない」は 92 人（7%）で、複式学級の回避に多くの方が理解を示していると考えます。

問6　複式学級に関して、心配なことは何ですか。（複数回答可）

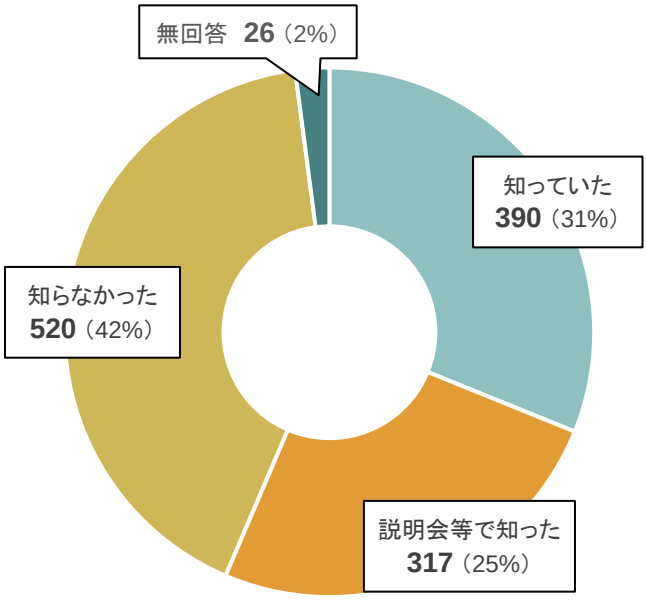


- **その他の意見**

　教職員の減少やそれに伴う負担の増加、児童の学力低下や他の小学校との授業進捗の比較に関する意見のほか、児童の転入・転出時のカリキュラム編成や指導の困難さに関する意見などがありました。

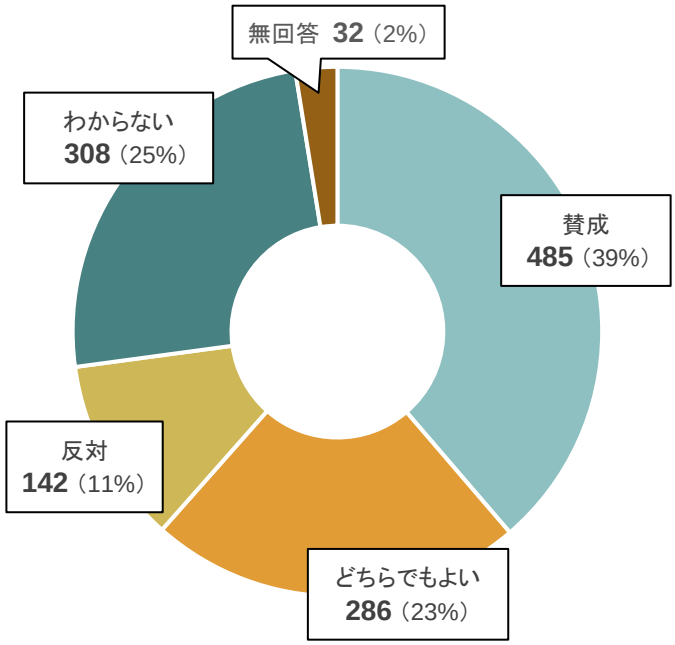
複式学級に対する心配ごとに関しては、「2学年同時に行う授業の方法や指導」が最も高く、次いで「教員数が少ないこと」の順となっており、授業の進め方や少ない教職員による授業や学校運営に対する不安があると考えられます。

問7　小中一貫教育について、どういう内容か知っていましたか。



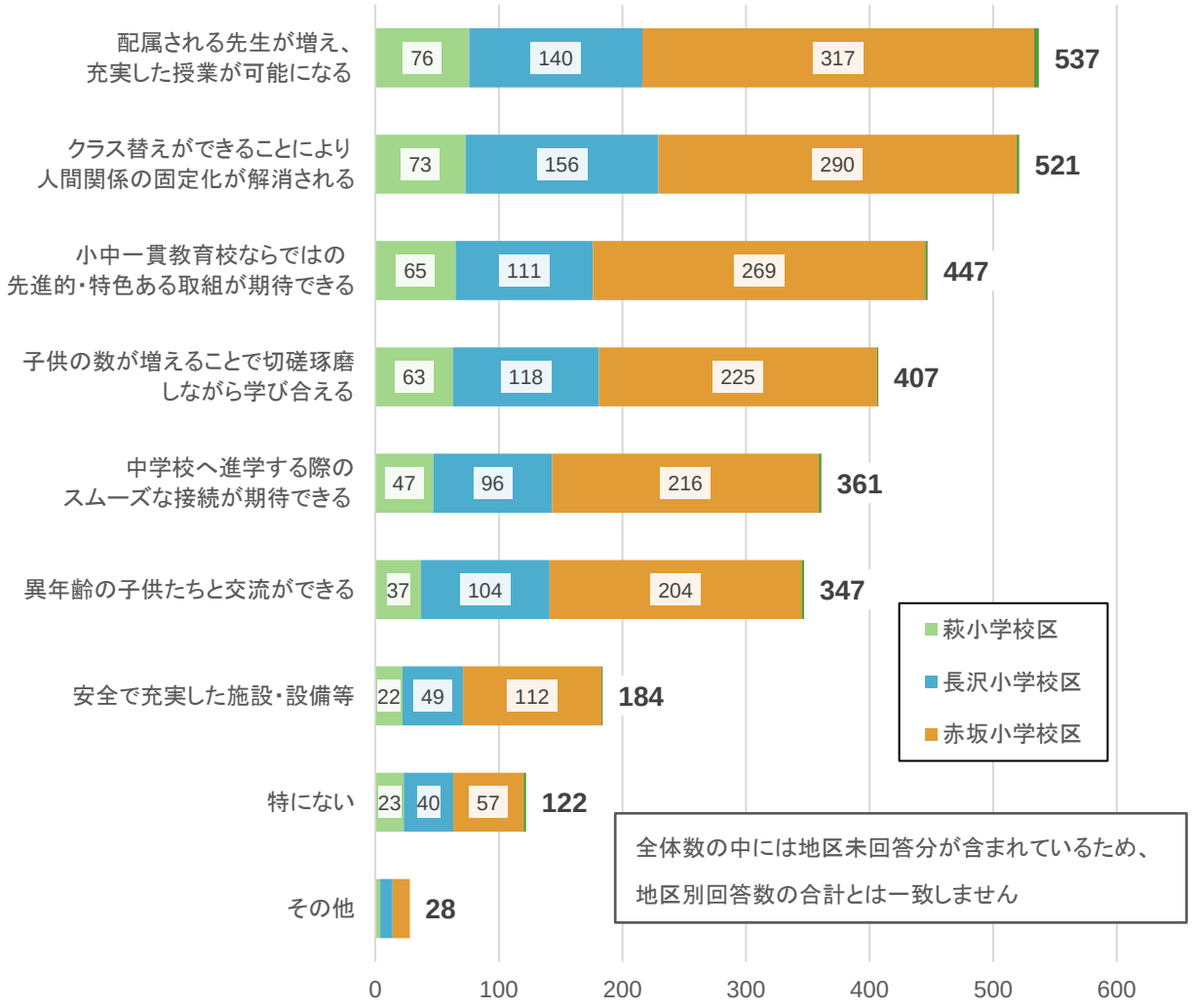
小中一貫教育の認知度に関しては、「知らなかった」が 42%と、「説明会等で知った」が 25%となっており、7割近くの市民に認知されていない状況であることから、引き続き情報発信が重要であると考えられます。

問8　音羽中学校区に施設一体型小中一貫教育校を設置することについて、現時点のお考えをお聞かせください。



施設一体型小中一貫教育校の設置に対する考えに関しては、「賛成」が 39%と最も高いですが、「わからない」が 25%と、「どちらでもよい」が 23%と、「反対」が 11%となっており、引き続き、保護者や地域住民の方に対し、丁寧に説明し、多くの方の理解を得る必要があると考えております。

問9　小中一貫教育校になることで、期待していることは何ですか。（複数回答可）

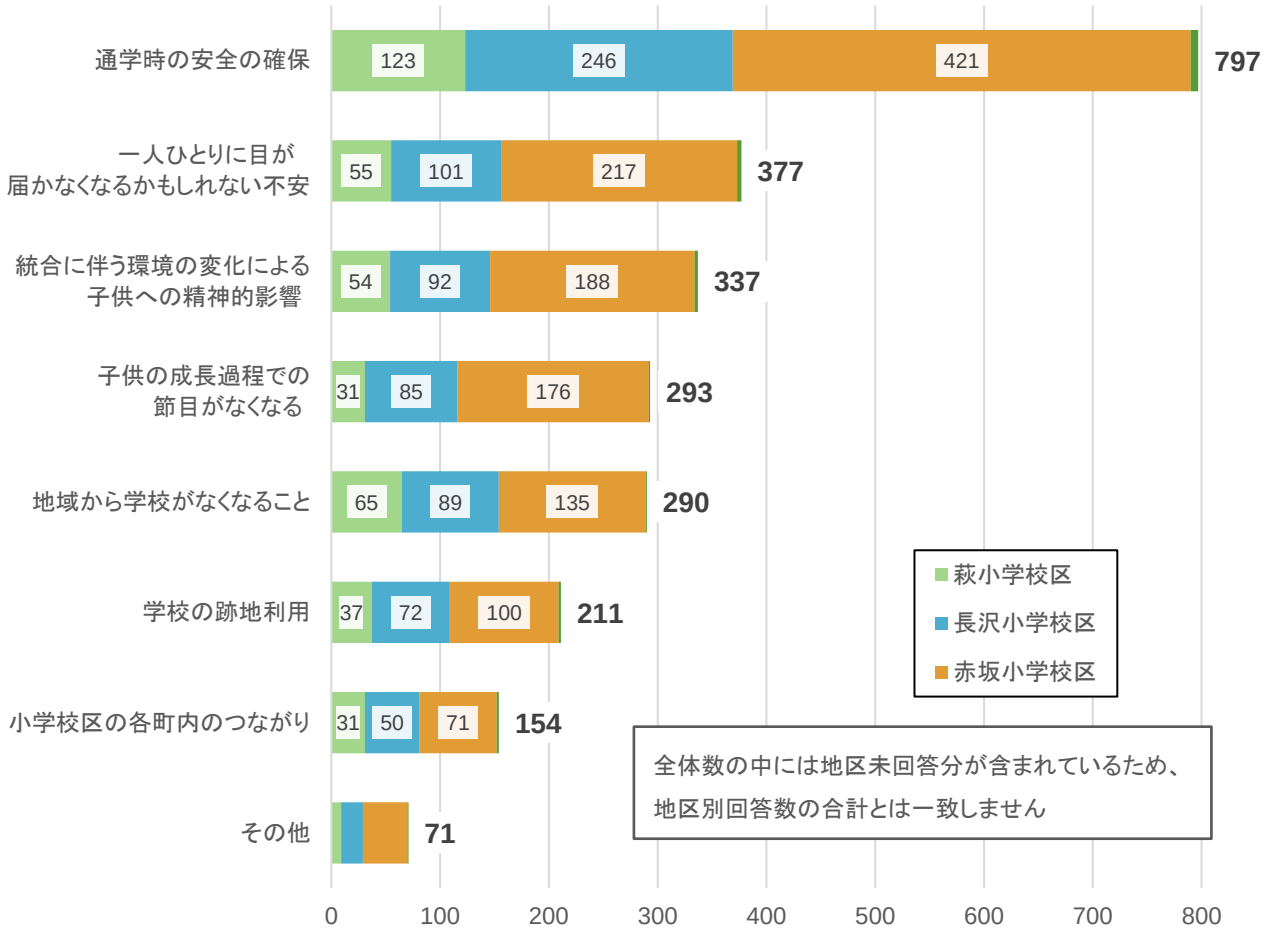


● **その他の意見**

教職員不足の解消による負担軽減、小学生が中学レベルの学習を開始することができる環境による学力の向上、小中一貫教育による保護者や地域の交流拡大による地域、街づくりに関する意見のほか、施設一体型は反対、施設分離型とし、各学校の長所を生かした学校や地域の存続、小中一貫学校には期待していないとする意見などがありました。

小中一貫教育校への期待に関しては、「配属される先生が増え、充実した授業が可能になる」が最も高く、「クラス替えができることにより人間関係の固定化が解消される」の順となっており、学校規模が拡大し、教職員が増加することによる学力向上や児童数の増加により多くの児童との関わり合いが生じることによる社会性の構築などが重視されていると考えられます。

問 10　小中一貫教育校になることで、不安に感じていることは何ですか。（複数回答可）

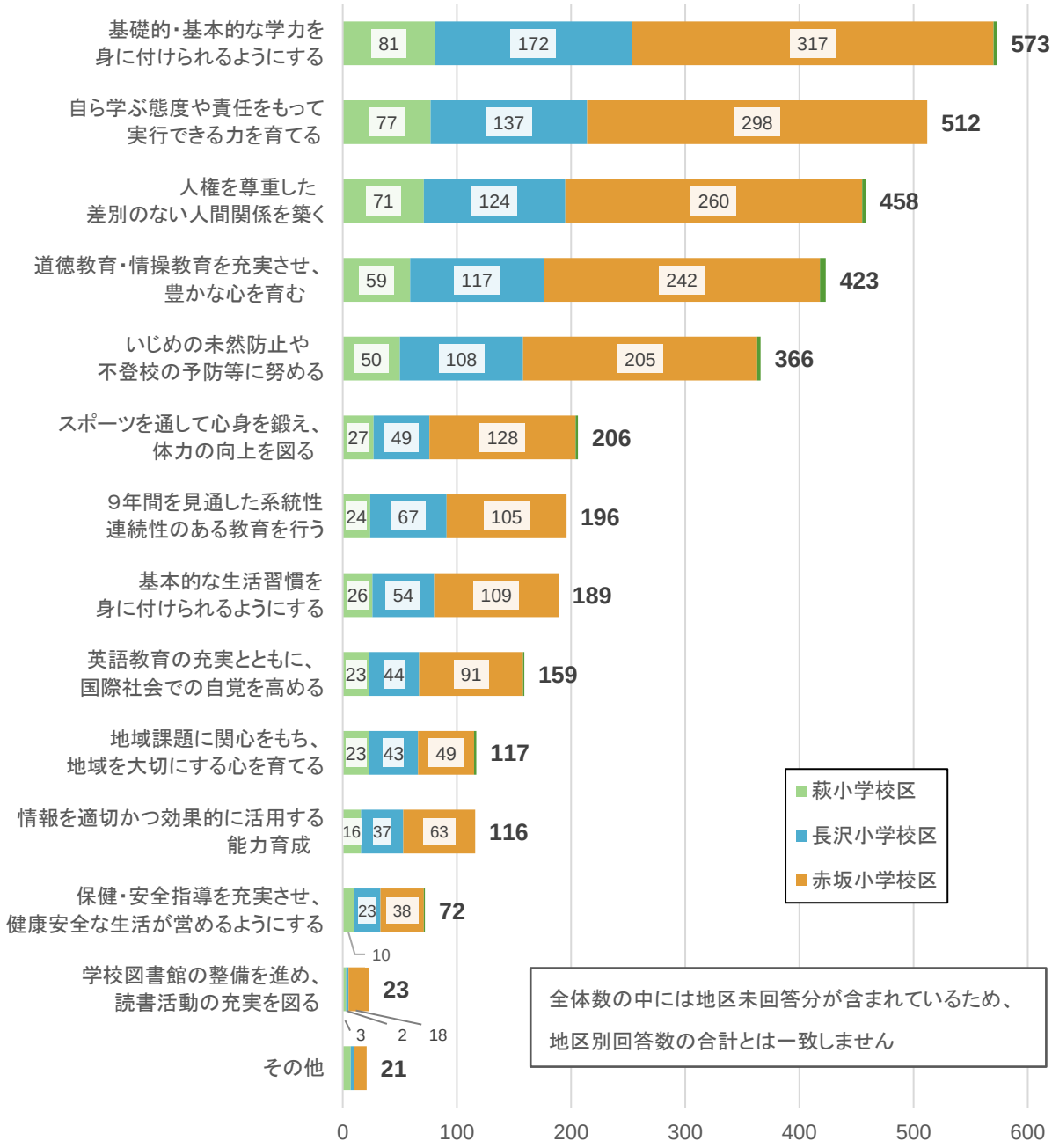


- **その他の意見**

　小学生から中学生までの幅広い年代での関係によるいじめや人間関係悪化、９年間、人間関係の変化がないことによるトラブル時の不安に関する意見のほか、登下校時の安全確保や児童・生徒の負担、児童・生徒への指導や学校行事等の複雑化による教職員への負担、PTA 行事と保護者や地域との関係、地域の特色を生かした授業の継続に関する意見などがありました。
また、不安や心配ごとはないという意見もありました。

小中一貫教育校への不安に関しては、「通学時の安全の確保」が最も高く、次いで「一人ひとりに目が届かなくなるかもしれない不安」の順となっており、安全・安心の学校生活の維持が重視されていると考えられます。

問 11　今後の学校教育に期待する教育効果（力を入れてほしいこと、取り組んでほしいこと）について教えてください。（3つまで選択可）



● **その他の意見**

教職員の質や指導力の向上、子どもの学力や社会性に関する教育の充実に関する意見のほか、安心・安全な登下校環境の確保や各小学校区の特色を生かした学校、地域、人や町の存続に関する意見がありました。

今後の学校教育に期待する教育効果に関しては、「基礎的・基本的な学力を身に付けられるようにする」が最も高く、次いで「自ら学ぶ態度や責任をもって実行できる力を育てる」の順となっており、学力の向上のみならず、自立し、社会性をもった資質や能力の育成を重視していると考えられます。